

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4677400147
法人名	医療法人社団春光苑
事業所名	グループホーム春光苑
訪問調査日	平成21年2月23日
評価確定日	平成21年4月9日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4677400147
法人名	医療法人社団春光苑
事業所名	グループホーム春光苑
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町新富536-2 (電話)0994-68-8070

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48-13
訪問調査日	平成21年2月23日
評価確定日	平成21年4月9日

## 【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7,5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	1名		
年齢	平均 86,55歳	最低	72歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団春陽会中央病院、真愛会上園病院、西の原歯科医院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に、違和感なく周囲にとけこんで建っている開設5年目のグループホームである。医療法人が母体であり、介護老人保健施設、在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設し、肝付町の高齢者福祉を担ってきた。医療との連携も充実しており、看取りについても職員は方針を共有し、勉強会を実施するなど体制を整えている。また、職員は自己研鑽に励みながら、ケアの目標を共有し利用者に関わっている。傾聴に心がけ利用者の思いや意向に応えられる様に日々のケアに邁進している。要介護3で病院から入居してきた利用者が本人の「自宅に帰りたい」との強い思いと在宅復帰に向けた職員のかみ細かい介護により、思いをかなえることができ、本人はもちろん職員も喜びと自身につながった事例がある。また、災害対策として日頃からの訓練はもちろんのこと、居室の表札をかけるフックの色で身体レベルを区別するなどの工夫がなされ、利用者の救助がスムーズにいくように取り組んでいる。開設5年目を迎え、これまでの実績を活かし更に充実したグループホーム運営が期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念は地域密着型の役割を理解し、職員全員で話し合い作り上げた。職員を育てる取り組みもマニュアルを作成し、勉強会、新人研修などで活用している。浴槽に手摺を設置し、利用者がより安全に入浴を楽しむことができるように配慮されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員一人ひとりが書けるところを書いて提出したものを管理者が取りまとめ、日々のケアを振り返る機会として捉え、取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヵ月ごとに運営推進会議を開いている。家族、地域住民の代表、行政関係者、法人の業務管理部、管理者兼計画作成担当者などの参加があり、ホームの検討課題やその後の状況報告など行っている。行政との情報交換や家族からサービスの質の向上につながる内容の意見も出るなどホーム運営において有意義な会議内容になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書には、ホームの相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。面会時や電話連絡の際に職員が気軽に意見要望を引きだせるように雰囲気作りを努めている。転倒防止のための家族からの意見があり、利用者の安全と自由な生活の確保について職員全員で話し合うなどホーム運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域のカラオケ大会、十五夜、奉仕作業に利用者に参加するなど積極的に地域住民と交流を深めるように努力している。また、自治会の総会でホームのアピールと理念を話し、地域に理解してもらえるように努めている。中学生の職場体験学習の受け入れや小学生がクリスマス会にダンスを披露しに来てくれるなど子供たちとの交流もある。苑の行事へ近隣の住民の方々の招待もしており、今後は地域との付き合いが日常的なものになるように取り組んでいきたいとの意向である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「相手の気持ちを大切に」、「ゆとりある雰囲気大切に」、「地域とのふれあいを大切に」の3本柱をグループホームの理念に掲げている。地域との交流の重要性を認識し、自治会の総会などで苑のアピールを兼ねて理念を話している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の目につきやすいところに掲示しており、パンフレットにも明記してある。朝礼時に職員は唱和を行い、毎日理念の確認をするようにしている。日々の業務の中で立ち返る際に理念を用いて話すこともある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事(奉仕作業、カラオケ大会、十五夜など)に参加している。町の運動会やお祭り見学に出かけ、苑での花見に地域の方々を招待するなど交流に努めている。また、小学生がクリスマス会にダンスを披露してくれたり、中学生の職場体験学習の受け入れもあり、子供たちとも交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は全家族、運営推進会議のメンバーなどに配布している。改善すべき点については改善対策ノート(改善計画)を作成し、全職員で話し合い、できることから取り組むようにしている。今回の自己評価は全員に書いてもらい、管理者が結果をまとめている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに運営推進会議を開いている。評価結果をもとに改善に向けての取り組みのモニター役として捉え運営推進会議の参加者全員に外部評価結果を配布し、取り組みについての話し合いが行われている。行政との情報交換や家族からサービスの質の向上につながる内容の意見も出るなどホーム運営において有意義な会議内容になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より情報交換や諸手続きを行う際に、機会を捉え積極的に連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月苑便りを発行し、日頃の暮らしぶりやお知らせなどを掲載している。個々については6ヵ月ごとに担当者より手紙で報告と面会時に日々の様子や状態を報告している。状態変化の際は随時電話連絡をしている。金銭管理は面会時と遠方の家族には出納帳で確認してもらっている。職員異動は苑便りで報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には、ホームの相談窓口と行政などの苦情受付機関を分かりやすく明示している。面会時や電話連絡の際に職員が気軽に意見要望を引きだせるように雰囲気作りに努めている。転倒防止のための家族からの意見があり、利用者の安全と自由な生活の確保について職員全員で話し合うなどホーム運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者のダメージになることを理解し、法人内異動はしないようにしている。離職者を最小限に抑えられるように労働条件、待遇面の見直しを検討中である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成の重要性を理解し、外部研修への参加や法人内研修での勉強会への積極的な参加を促している。外部研修はミーティングで研修報告し、職員は知識を共有している。内部研修は夜あるので、夜勤者以外は全員参加である。また、グループホーム勉強会を担当者を決めて行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム協議会、肝付町が主催の肝付地区に3ヶ所あるグループホームの会(オレンジリング)も行っている。他のグループホームの新人研修の受け入れや職員が他のグループホームの見学に行くなど交流を図りながらサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の他のサービスを利用して、在宅介護支援センターを通じて入居となる場合が多いが、入居前には利用者と家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気を見てもらったうえで利用を受け入れている。必要時は法人内の相談員と連携を図りながら対応している。在宅からの申し込み時は必ず自宅を訪問して本人と家族から思いや意向、生活歴の情報を得るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として教えてもらう気持ちで受け、支えあう関係を築いている。季節の行事や料理の味付け、そば打ち、餅つき、団子作りなど利用者から教わったりしながら支えあう関係を作るように努力している。また、介護度が改善されて在宅で生活できるようになった利用者もあり、職員、本人ともに喜びをともにした。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に家族や本人などから得た生活歴やサービス担当者会議で得た情報を職員全員が把握できるようにしている。朝の表情、日頃の言動、会話の反応、視線の行き先から気づいたことや興味をのめしたことは申し送りノートに記録し、全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いを第一に面会時に家族の意見を聞き、職員の意見、主治医の情報などを基に本人本位の個別の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は状態の変化がないときは6ヵ月で見直しを行っている。日誌、介護記録に記録し、次の計画につながっている。また、状態変化時や入退院後の見直しは都度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を活かして利用者の健康状態をこまめに把握し、身体状況の変化の早期発見につなげ、かかりつけ医との情報交換がスムーズに運ぶように配慮している。また、病院受診の送迎や理容室利用の送迎など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関と連携を取っており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。職員が同行した場合には、受診後に必ず受診内容と結果を家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には家族会の際に重度化や終末期にむけたホームの方針を話している。職員は全員方向性を確認し合い、勉強会を実施するなど体制はできている。訪問看護とも協力を得て話し合いを行っている。指針は作成しているが同意書の作成を検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で利用者の尊厳を大切に、ことばかけ、接し方など気をつけるようにしている。記録の取り扱いにも配慮している。個人情報保護法の勉強会や職員採用時の誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、睡眠、食事、入浴、レクリエーションなど一人ひとりの体調や生活リズムに留意しながら、柔軟に支援している。朝、皆より遅く食事をとる利用者もいる。朝早く起きてくる利用者にはお茶を出してゆっくりしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて皮むき、配膳、下膳など職員とともに行っている。利用者の嗜好を把握し、苦手なものは代替して提供するなど配慮している。職員と会話を楽しみながら一緒に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりの体調やペースに合わせて支援している。ときには入浴剤を入れて楽しめるように工夫するととても喜ばれる。足ふきマットも一人ひとり交換し、利用者が気持ちよく入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダーめくり、カーテンの開け閉め、箱作り、茶碗洗い、鉢の水やりなどそれぞれの役割や場面作りの支援をしている。そば打ち、餅つき、団子作りは利用者全員大好きで腕をふるってくれる。また、新聞を毎朝楽しみにしている利用者もいる。外食の際のドライブコースは利用者の思い出の地をコースに取り入れるように配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は苑外を散歩したり、テーブルを外に出して食事を楽しんだりしている。買い物や散髪、すぐ近くの温泉施設で外食をするなどホームに閉じこもらない支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中はできるだけ鍵をかけないようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回夜間想定で地域(自治会長、近隣の方々)の協力をもらい、自主訓練を行っている。居室の表札をかけているフックの色で身体レベルを表わす工夫や救助済の居室の表札ははずす工夫などしている。救命救急の講習も職員全員受講済みである。本年度は年4回の救命救急を兼ねて実施を計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し、必要に応じて個々の水分と栄養摂取は把握している。起床時は必ず水分補給している。身体状況に応じて、食事形態を考慮している。栄養バランスは法人内の栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く明るい。L字型になっているので夜勤の際は死角部分になる廊下にカメラを設置し、利用者の安全確保の配慮がされている。1日5回ホールの温度チェックや空気の入替えなどに配慮がされている。浴室、トイレなども身体機能を活かし、自立した生活が送れるよう配慮が行き届いている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、テレビ、ベッド、タンス、お仏壇、時計、カレンダーなど使い慣れた家具や小物、写真が飾られており、その人らしい居室で居心地よく過ごせるようにしてある。表札の高さも利用者の目線に合わせて調整されている。		